

2014年度 第3四半期決算説明会

第91期:第3四半期累計期間(2014年4月1日～2014年12月31日)

2015年3月11日



太平洋工業株式会社

目 次

1. 会社の概要
2. 2014年度第3四半期業績実績
3. 2014年度業績予想
4. 長期ビジョン・中期経営計画

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 当社の概況

- ◆創業 1930年8月
- ◆代表者 社長 小川信也
- ◆資本金 43億2千万円
- ◆株式 東証・名証一部上場('70年8月) 証券コード:7250

セグメント		プレス樹脂製品 事業	バルブ製品事業		その他	合計
事業			タイヤバルブ・制御機器事業	TPMS事業		
単 独	'13売上高	400億円 (65%)	109億円 (18%)	102億円 (17%)	—	612億円 (100%)
	主要工場	西大垣・東大垣・養老 九州・栗原・若柳	北大垣・美濃	北大垣	—	国内8工場
連 結	'13売上高	645億円 (70%)	270億円 (30%)		4億円 (0%)	919億円 (100%)
	人 員	2,090人	965人		75人	3,260人
	海外生産拠点	台湾・米国 中国・タイ	台湾・韓国・タイ	米国	—	5ヶ国 7工場
主要製品		プレス加工 樹脂加工、金型	タイヤバルブ、バルブコア カーエアコン用コンプレッサー部品	TPMS	ゴルフ場 ソフトウェア 保険代理店	
主要顧客		トヨタ、ダイハツ、日野 三菱、ホンダ、スズキ プライムアースEVイナジー	ブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴム、東洋ゴム イノアック、ミシュランタイヤ、トピー工業 デンソー、豊田自動織機、サンデン、ハンラ空調 ヴァレオ、パナソニック、東芝	トヨタ 日産 ホンダ	地域企業	

1-2 企業結合の状況

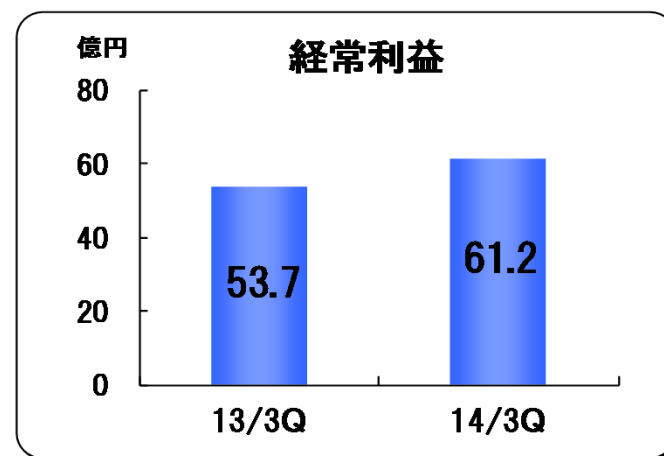
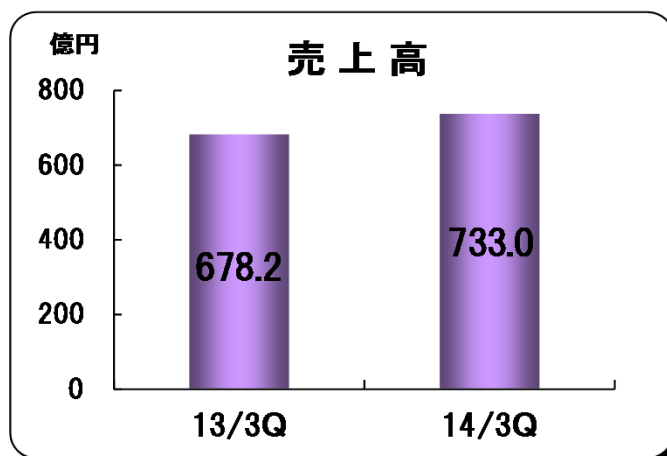
★は新会社

プレス・樹脂製品事業		バルブ製品事業	その他
連結	台湾	太平洋汽門工業股份有限公司 1984年設立 売上高:66億円 人員:300人	国内連結子会社
	タイ	Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd 1989年設立 売上高:17億円 人員:200人	太平洋開発(株) 太養興産(株) 1972年設立 売上高:2億円 人員:20人
	米国	Pacific Manufacturing Ohio, Inc. 1999年設立 売上高:221億円 人員:550人	ピーアイシステム(株) 1987年設立 売上高:6億円 人員:60人
		★Pacific Manufacturing Tennessee, Inc. 2014年設立	
	中国	天津太平洋汽車部件有限公司 2005年設立 売上高:56億円 人員:230人 長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 2011年設立 売上高:12億円 人員:60人	持株会社等
国内	国内	太平洋産業株式会社 1974年設立 売上高:12億円 人員:20人	Pacific Industries USA Inc. 1988年設立
	韓国	太平洋バルブ工業株式会社 1987年設立 売上高:17億円 人員:90人 太平洋エアコントロール工業株式会社 2004年設立 売上高:41億円 人員:180人	太平洋工業(中国) 投資有限公司 2012年設立
	中国	★太平洋汽車部件科技(常熟)有限公司 2014年設立	
持分法適用会社		PECホールディングス株式会社(日本) 1961年設立 売上高:172億円 人員:910人	欧州
		Pacific Industries Europe NV/SA 2012年設立	

2-1 第3Q 連結業績

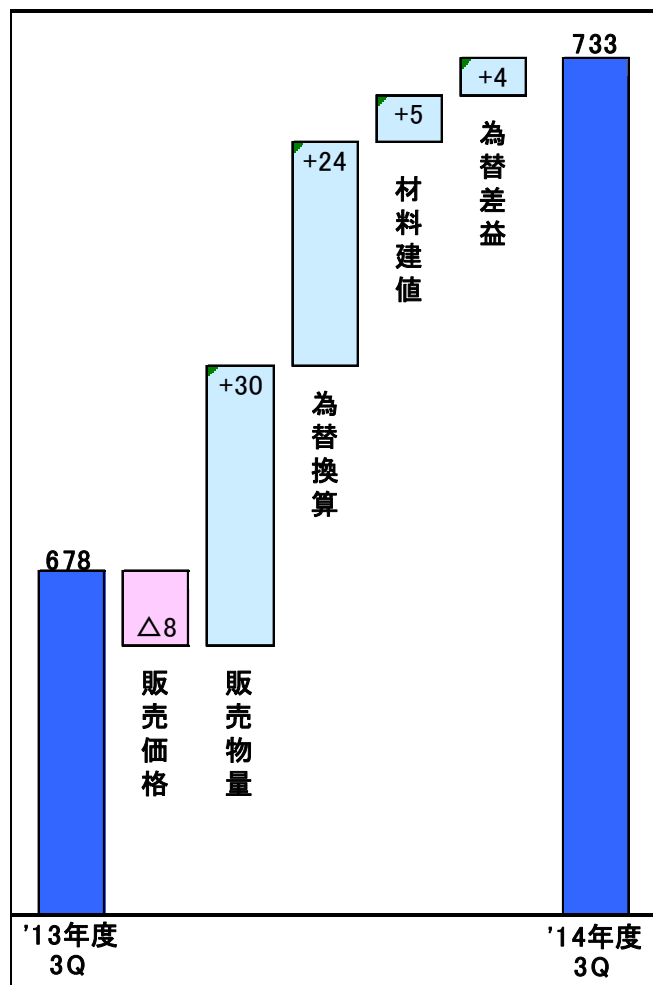
(百万円、%)

	前第3 四半期	第3四半期	前四半期比		第3四半期累計
		実績	増減	増減率	
売上高	67,822	73,308	5,486	+8.1	3期連続の増収 過去最高
営業利益	4,092 6.0%	4,794 6.5%	702	+17.2	3期連続の増益 過去最高
経常利益	5,373 7.9%	6,125 8.4%	752	+14.0	3期連続の増益 過去最高
四半期純利益	3,470 5.1%	4,424 6.0%	954	+27.5	3期連続の増益 過去最高

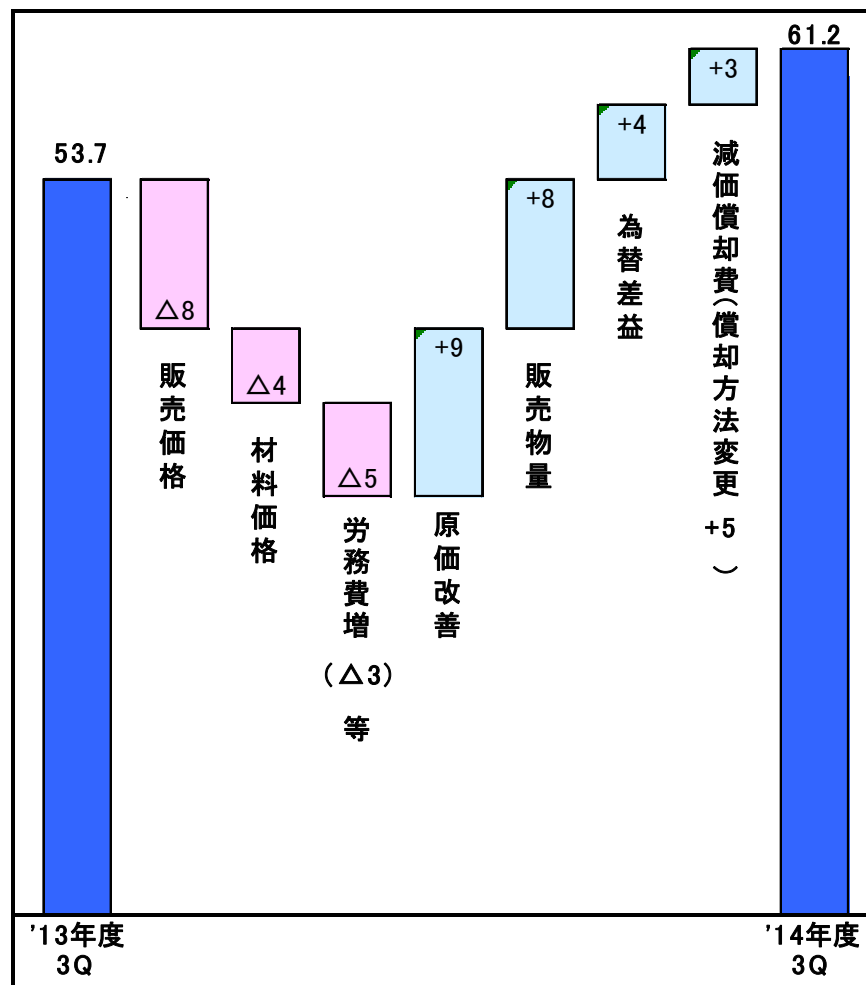


2-2 第3Q 連結利益増減要因

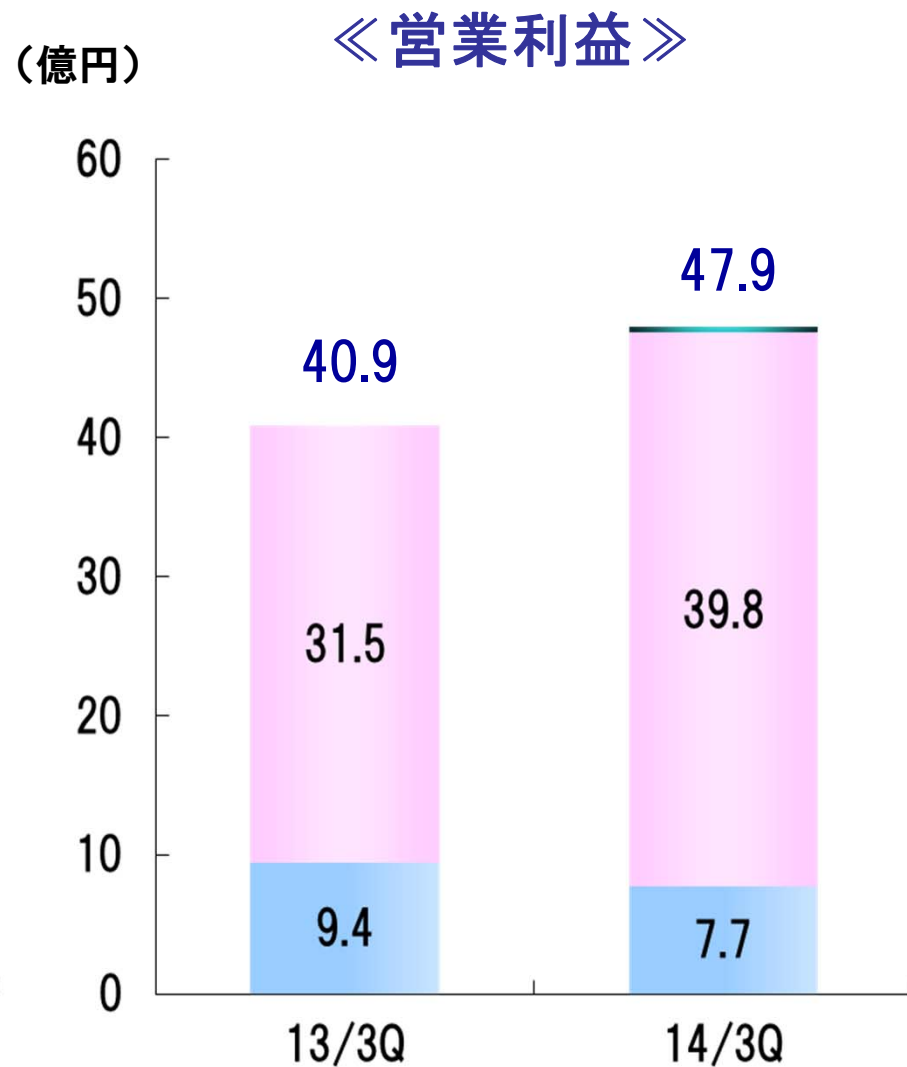
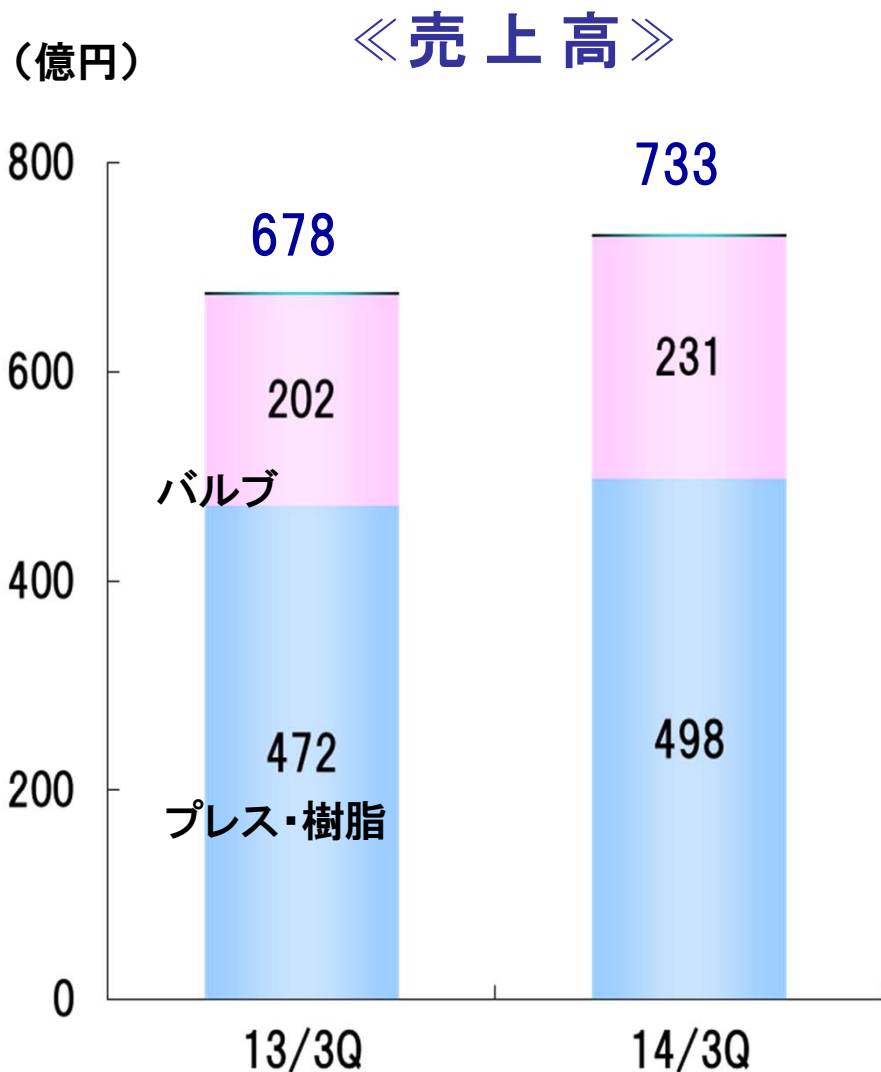
《14年度3Q 対 13年度3Q》
売上高+55億円



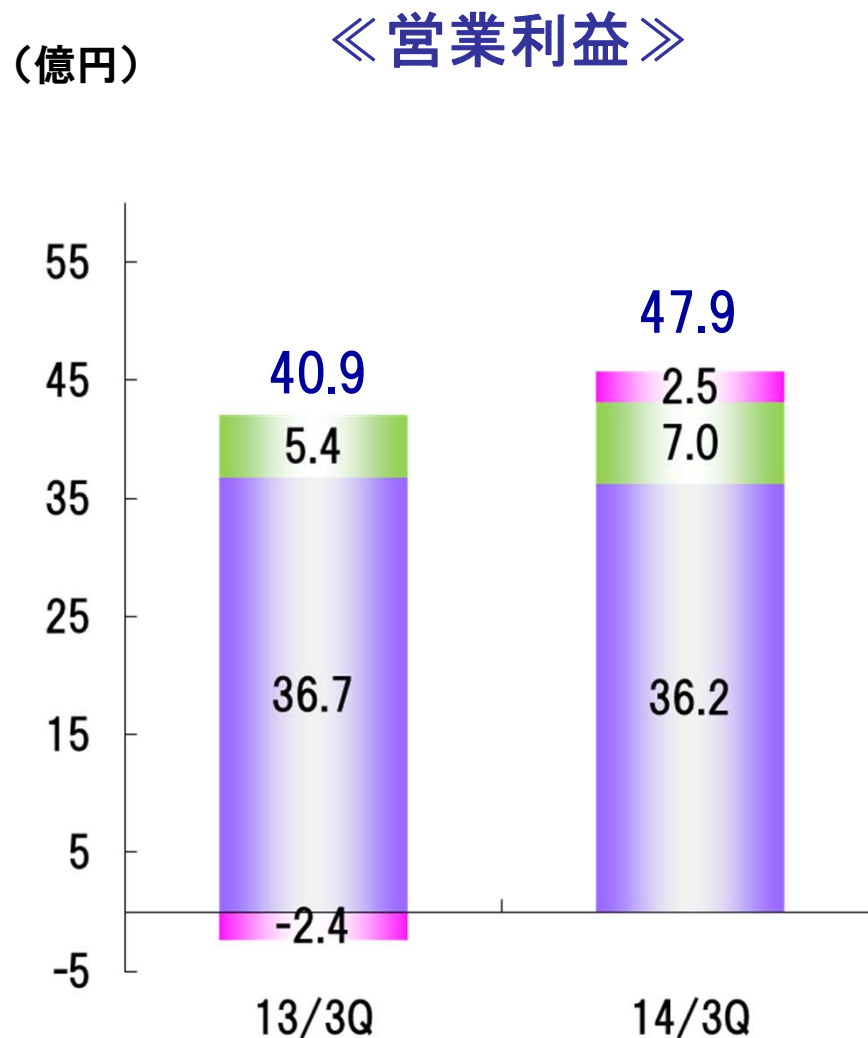
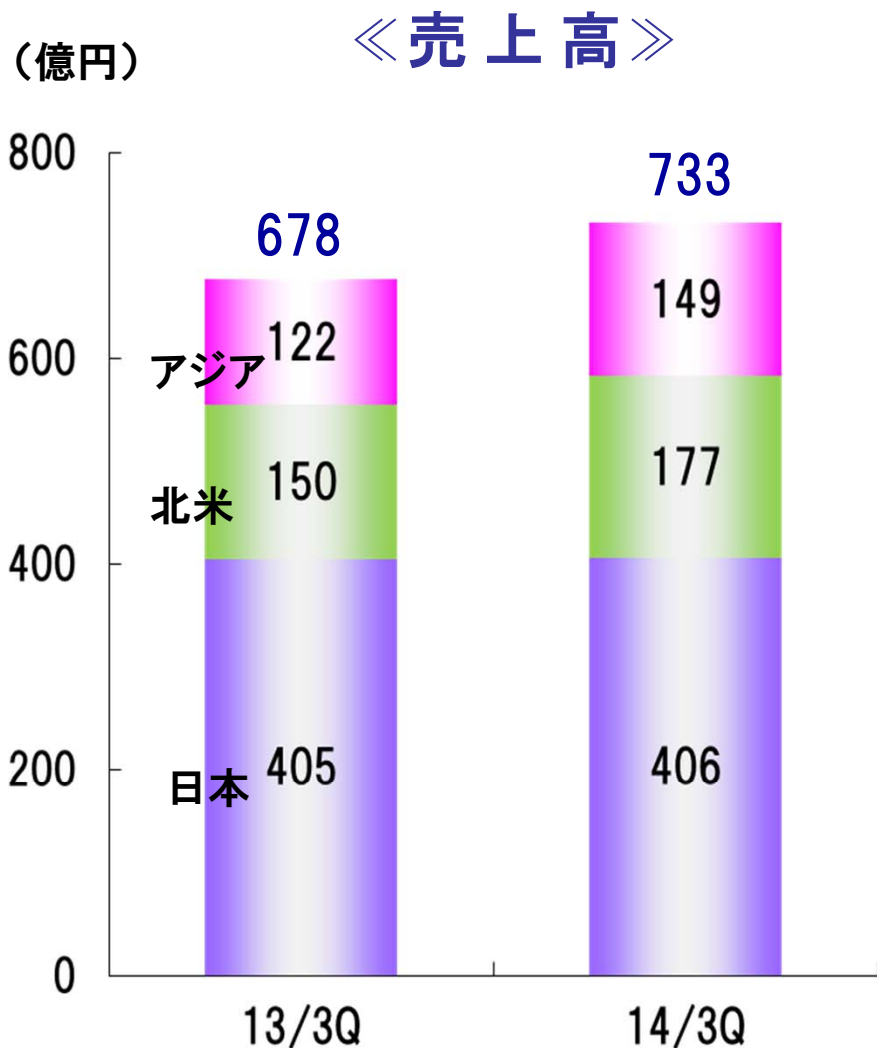
《14年度3Q 対 13年度3Q》
経常利益+7億円



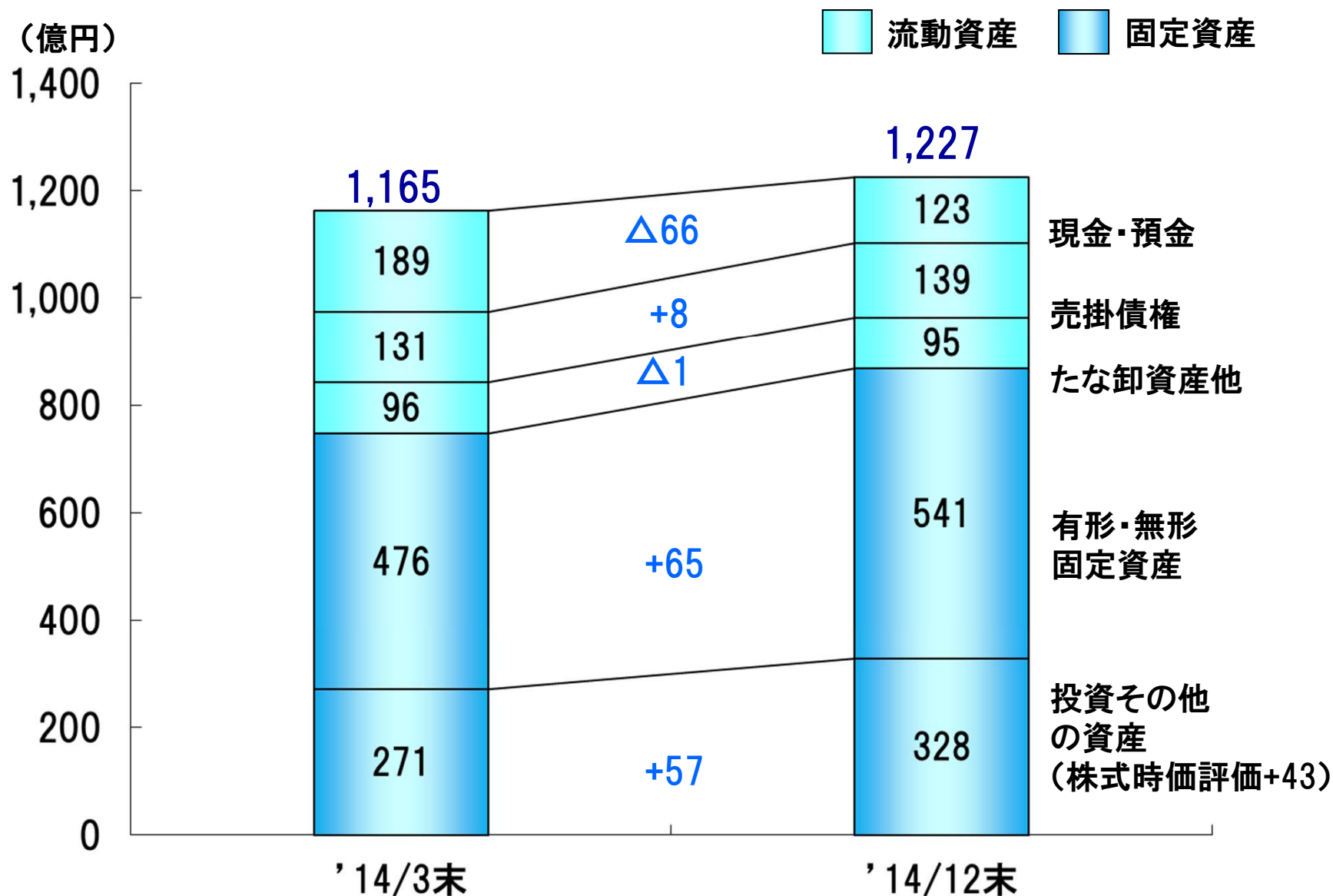
2-3 第3Q 連結事業別セグメント



2-4 第3Q 連結地域別セグメント



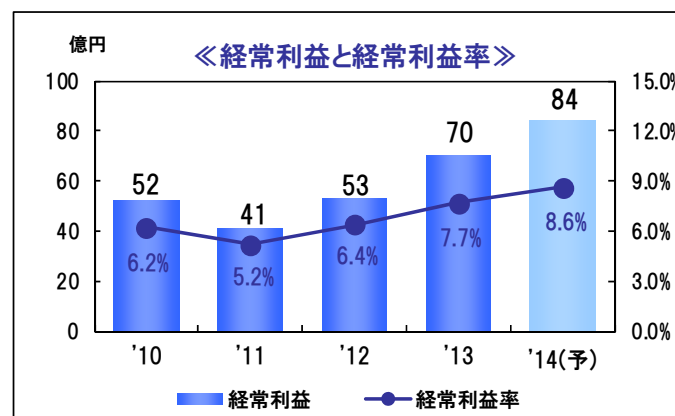
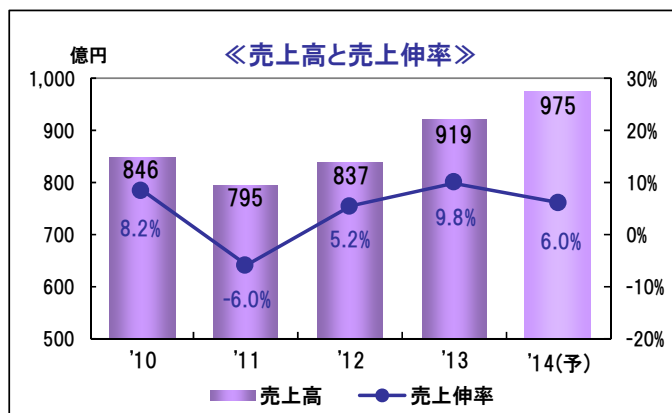
2-5 第3Q 連結総資産増減内訳



3-1 通期 連結業績予想

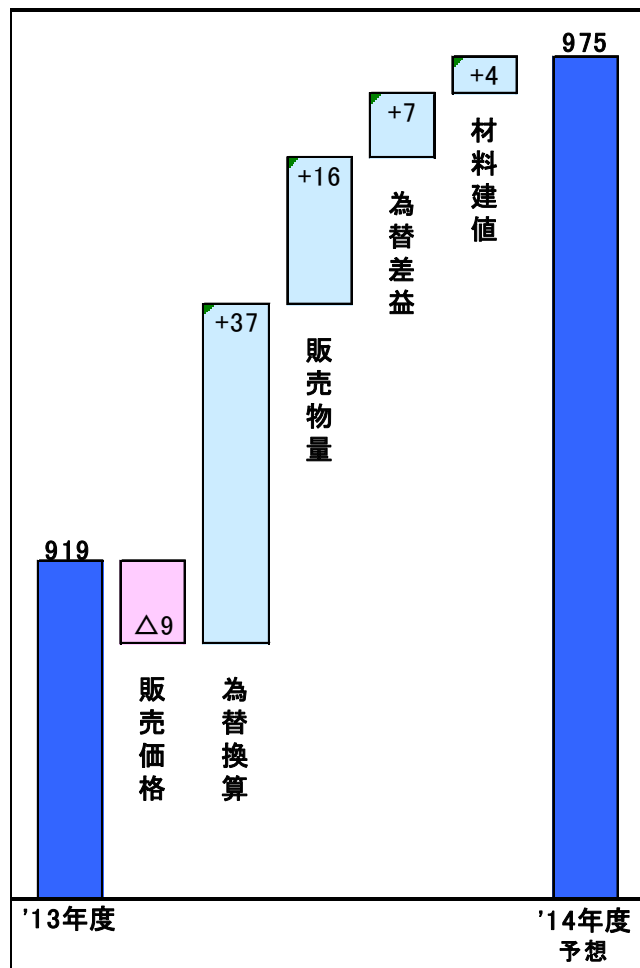
[百万円]

	'12	'13	'14 (10/29予想)	'14 (今回予想)	前回予想比		前期比		連単 倍率	通期(予想)
					増減	増減率	増減	増減率		
売上高	83,700	91,976	95,000	97,500	2,500	2.6%	5,524	6.0%	1.6	3期連続の増収 過去最高
営業利益	4,340	5,500	6,700	6,800	100	1.5%	1,300	23.6%	1.4	3期連続の増益 過去最高
経常利益	5,372	7,062	7,800	8,400	600	7.7%	1,338	18.9%	1.4	3期連続の増益 過去最高
当期純利益	2,807	4,587	5,400	6,000	600	11.1%	1,413	30.8%	1.4	2期連続の増益 過去最高
経常利益率	6.4%	7.7%	8.2%	8.6%	0.4%		0.9%			
ROE	6.4%	8.7%	8.9%	9.5%	0.6%		0.8%			
ROA	5.7%	6.6%	6.5%	7.0%	0.5%		0.4%			
一株当たり純資産(円)	900	1,079	1,186	1,280	94	7.9%	201	18.6%		

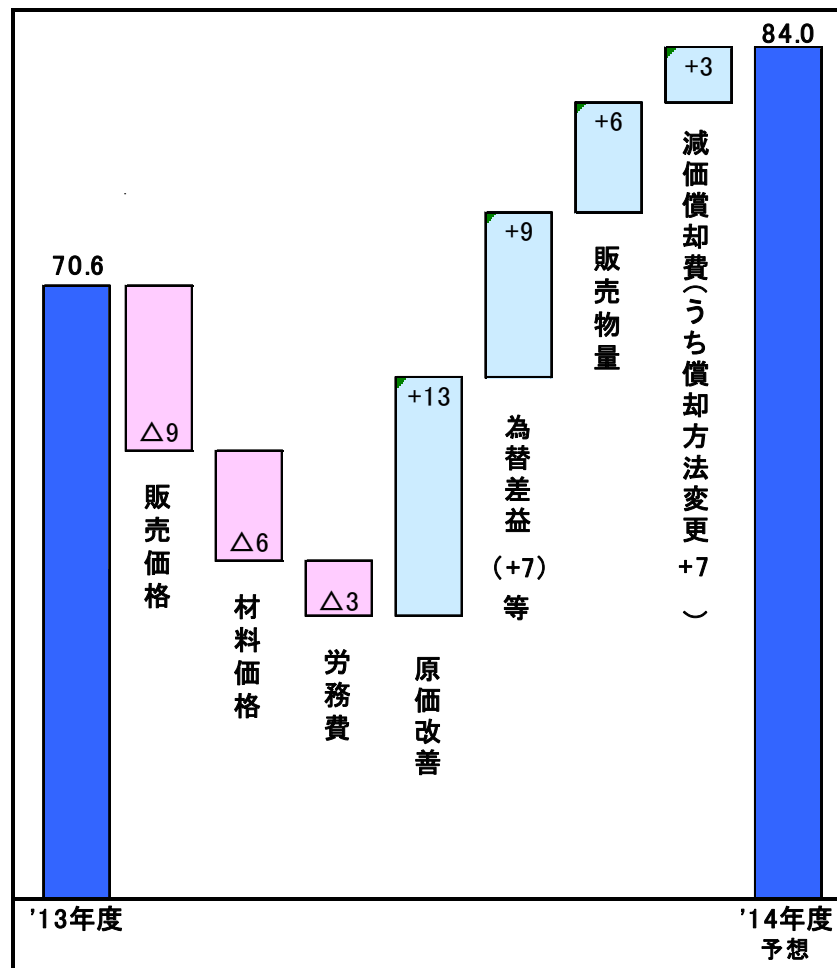


3-2 通期 連結利益増減要因

《14年度予想 対 13年度》
売上+55億円

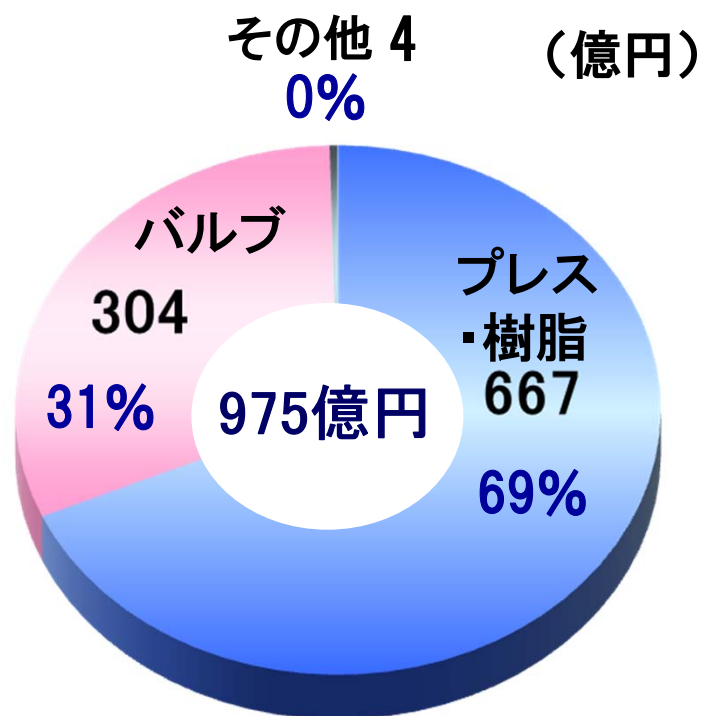


《14年度予想 対 13年度》
経常利益+13億円

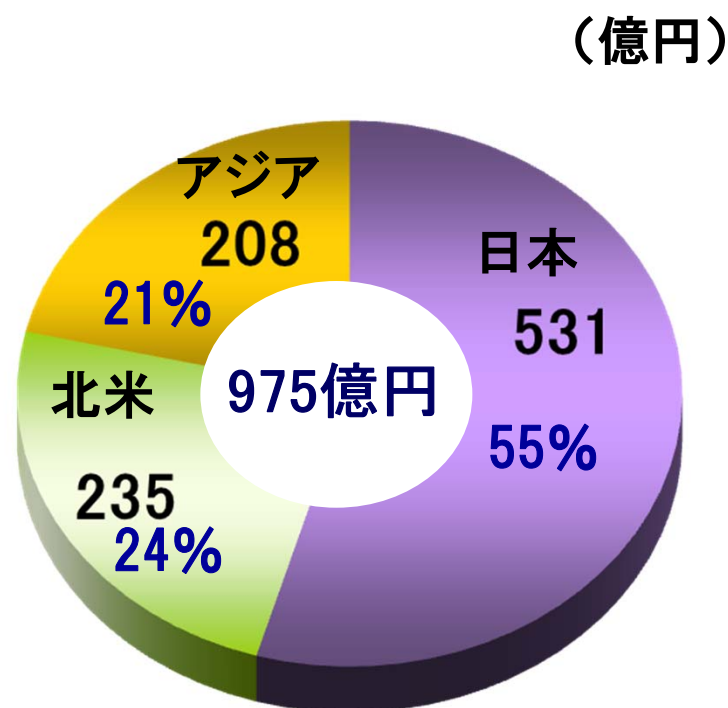


3-3 2014年度連結セグメント予想

事業別売上高

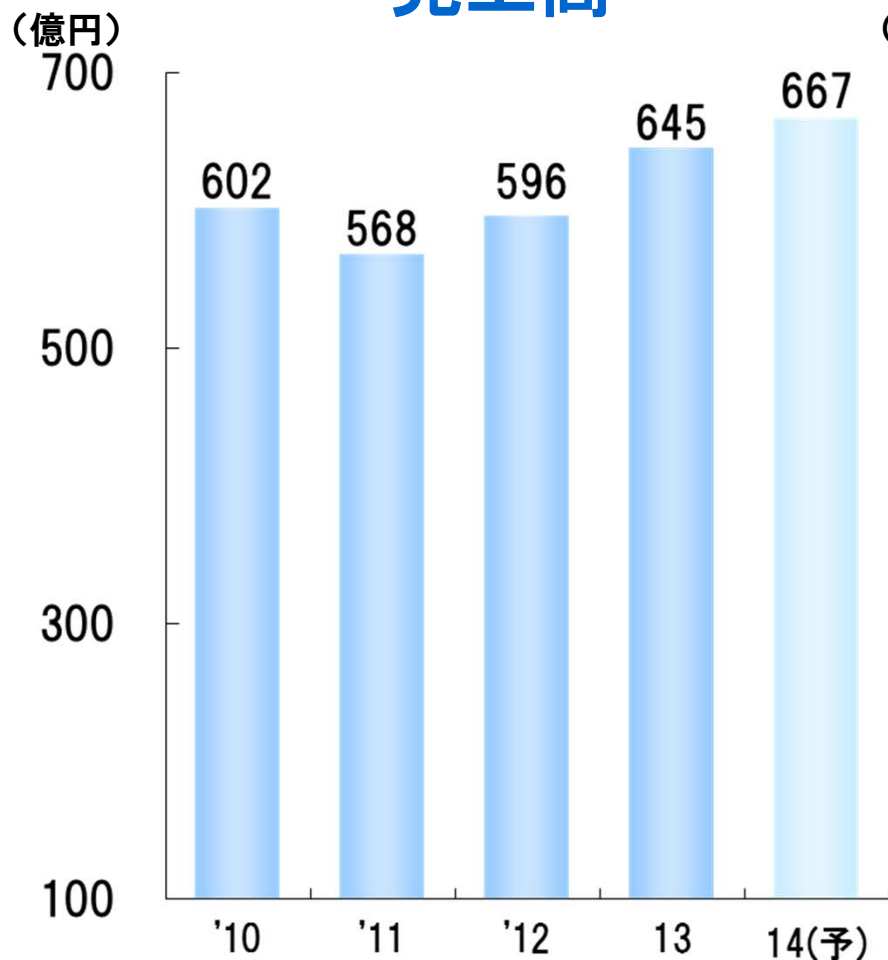


地域別売上高



3-4 事業別セグメント: プレス樹脂製品事業¹¹

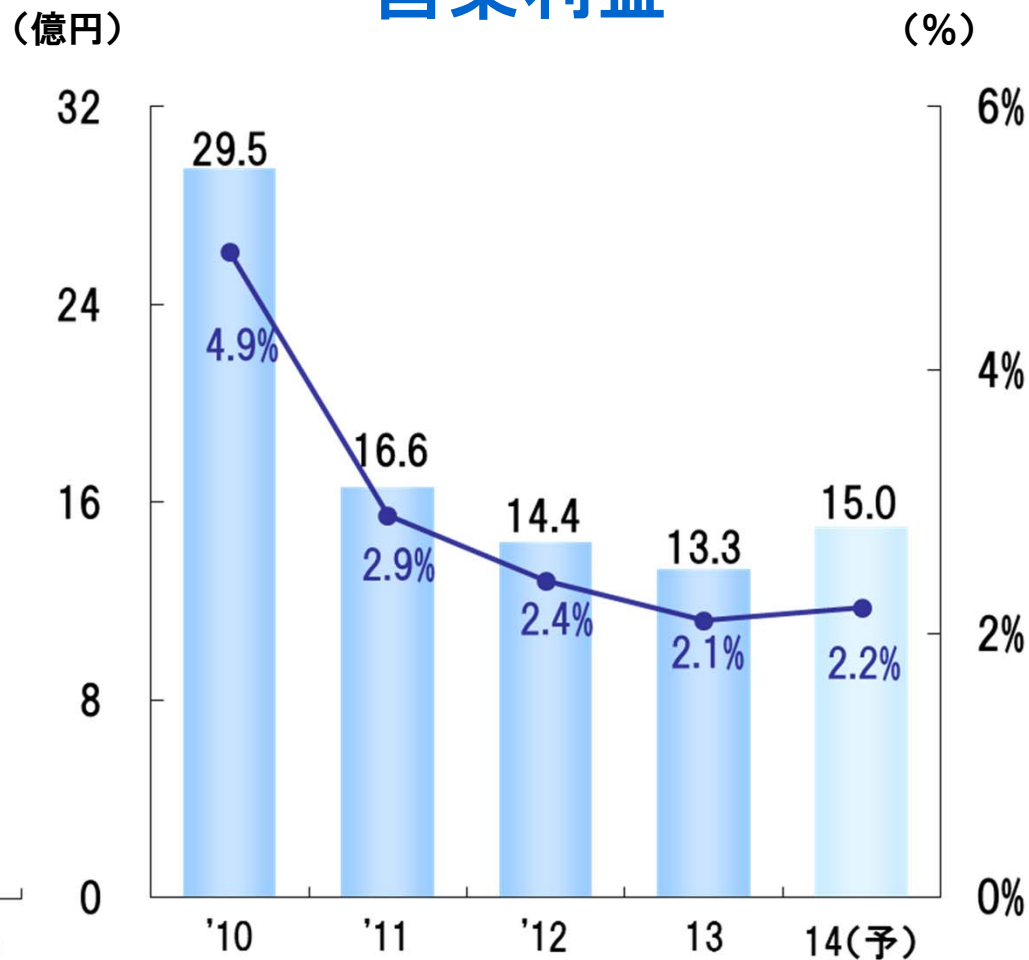
売上高



<売上高>

2014年度の売上高は、日本において消費税増税の影響により減収が見込まれるものの、中国での拡販効果、米国での堅調な販売により増収を見込んでおり、全体では前年並を見込む。

営業利益

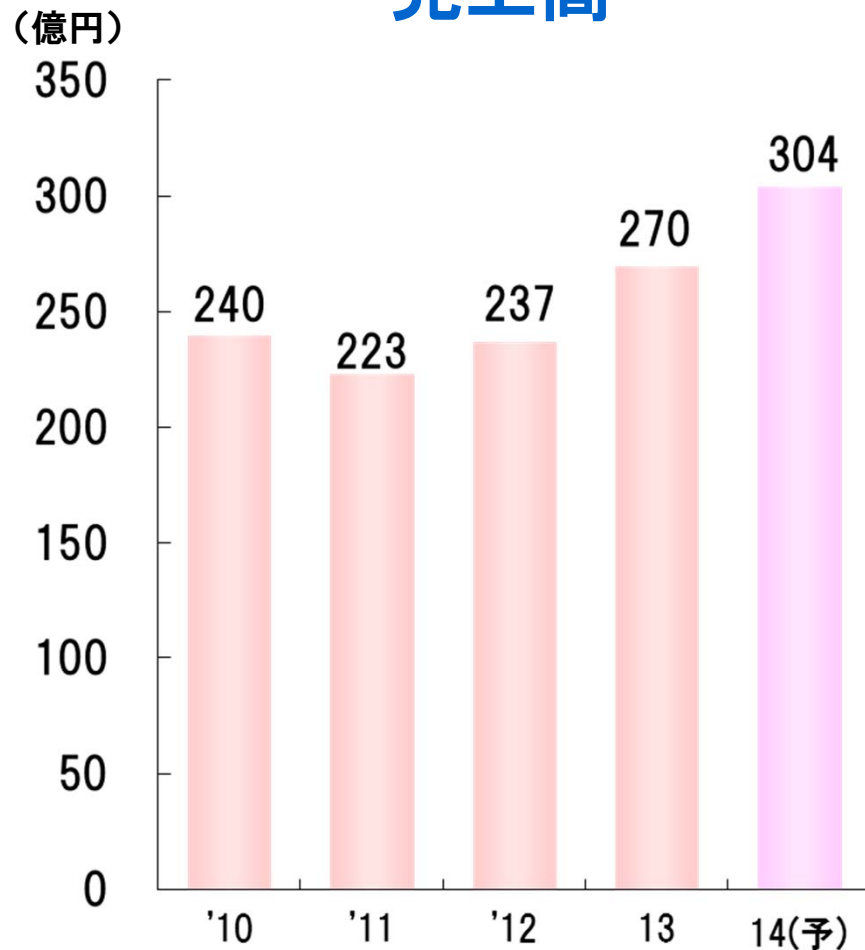


<営業利益>

2014年度の営業利益は、日本での販売物量減少の影響があるものの、減価償却費の減少(償却方法変更含む)、中国での型回収の回復や販売増加等により、前期比12.4%の増益を見込む。

3-5 事業別セグメント:バルブ製品事業

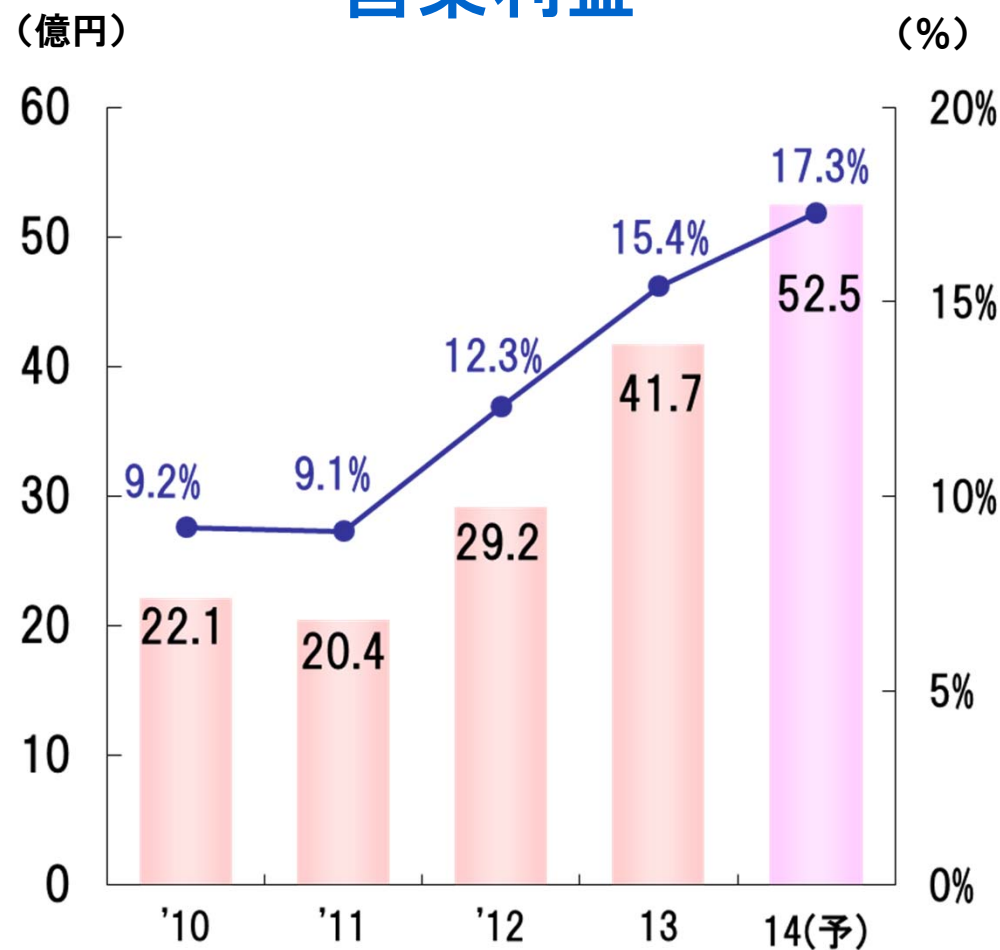
売上高



<売上高>

2014年度の売上高は、日本では、バルブ・TPMS製品が輸出を中心に増加するとともに、北米・韓国での増収が寄与し、前期比12.2%の増収を見込む。

営業利益

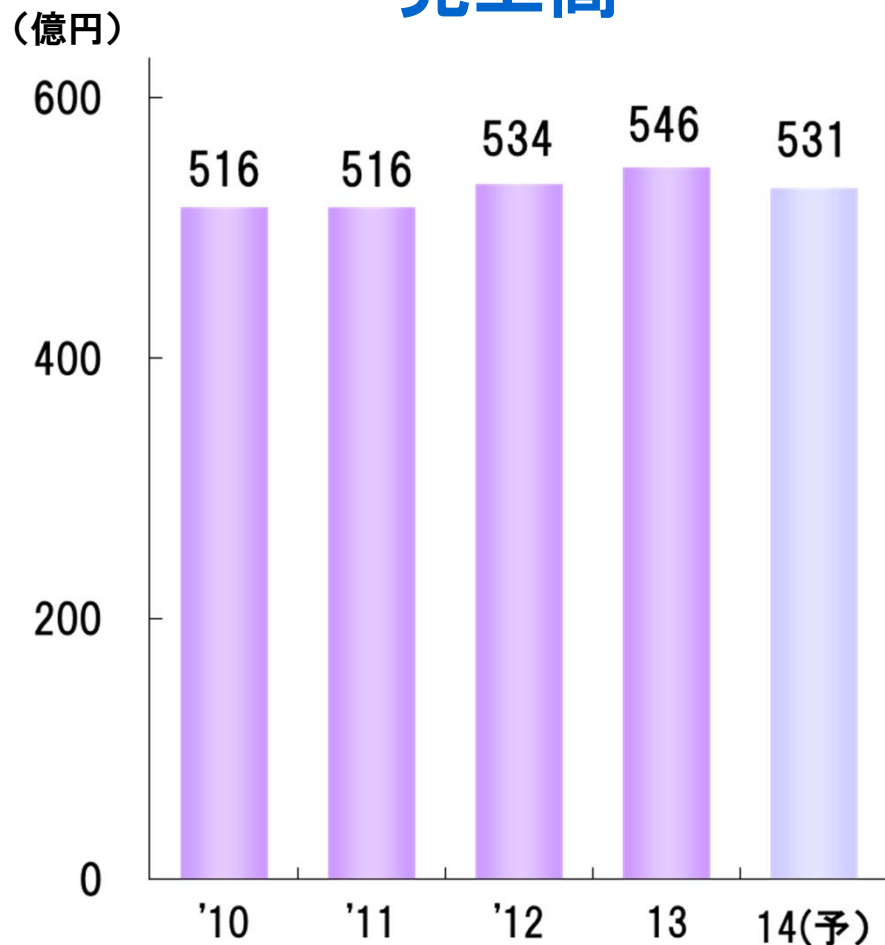


<営業利益>

2014年度の営業利益は、販売価格の値下げ影響があるものの、販売物量増加や原価改善により、前期比25.7%の増益を見込む。

3-6 地域別セグメント:日本

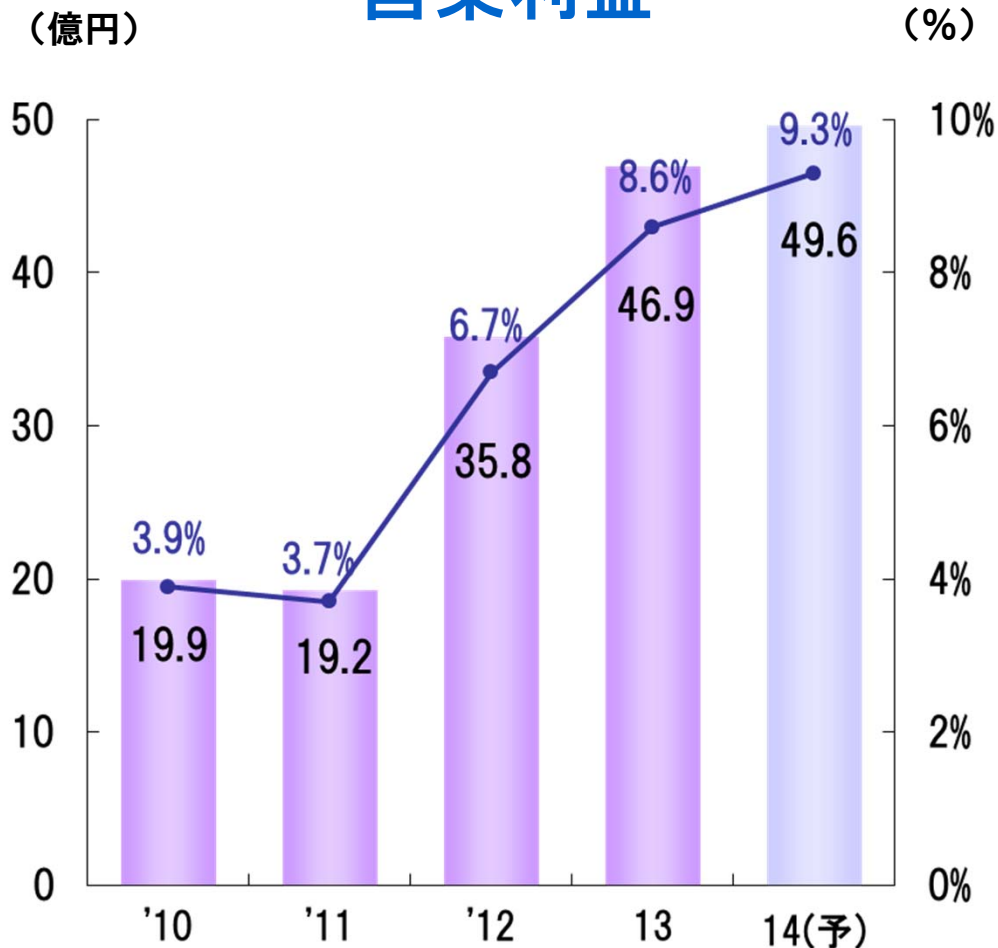
売上高



<売上高>

2014年度の売上高は、輸出の増加はあるものの、消費税増税の影響により、主要顧客の自動車生産台数減少が見込まれ、前期比2.8%の減収を見込む。

営業利益

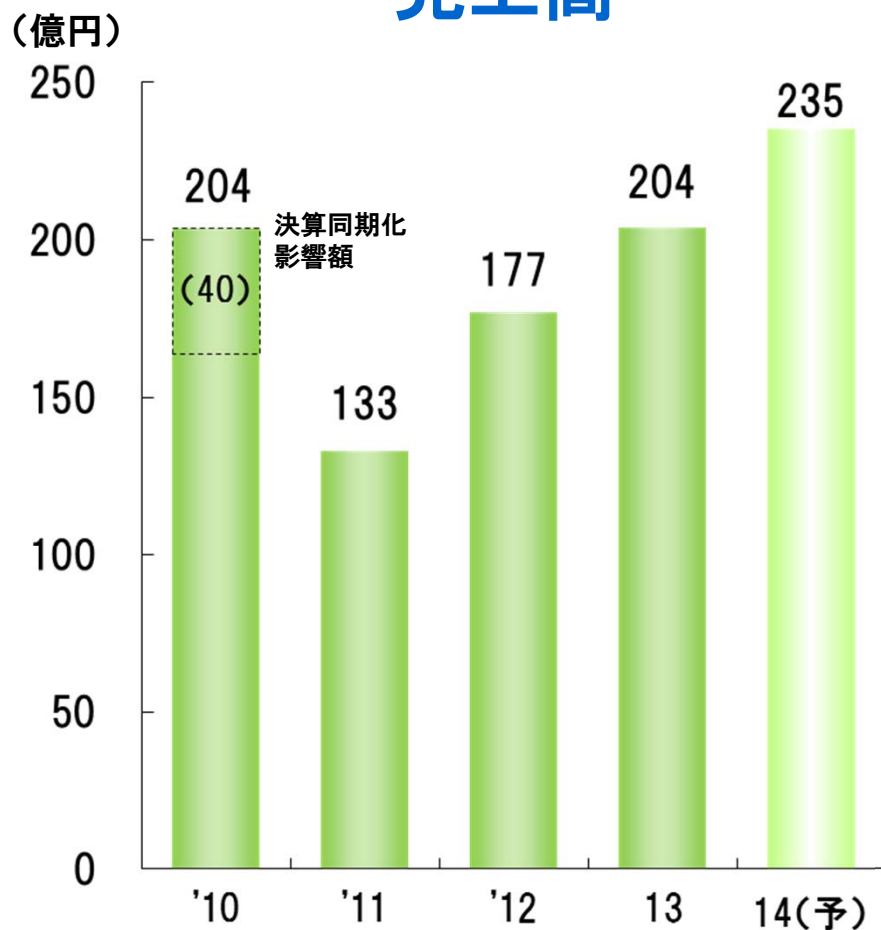


<営業利益>

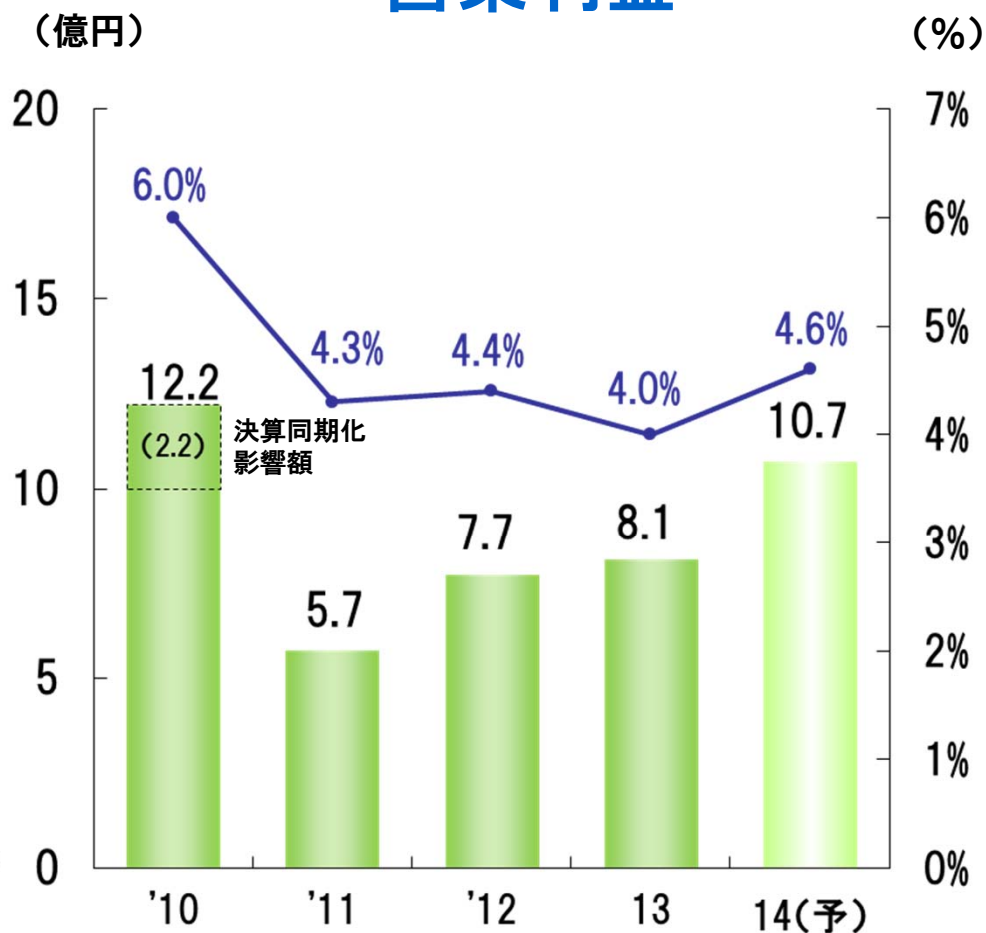
2014年度の営業利益は、物量減少の影響があるものの、原価改善や減価償却費の減少(償却方法の変更含む)により、前期比5.6%の増益を見込む。

3-7 地域別セグメント:北米

売上高



営業利益



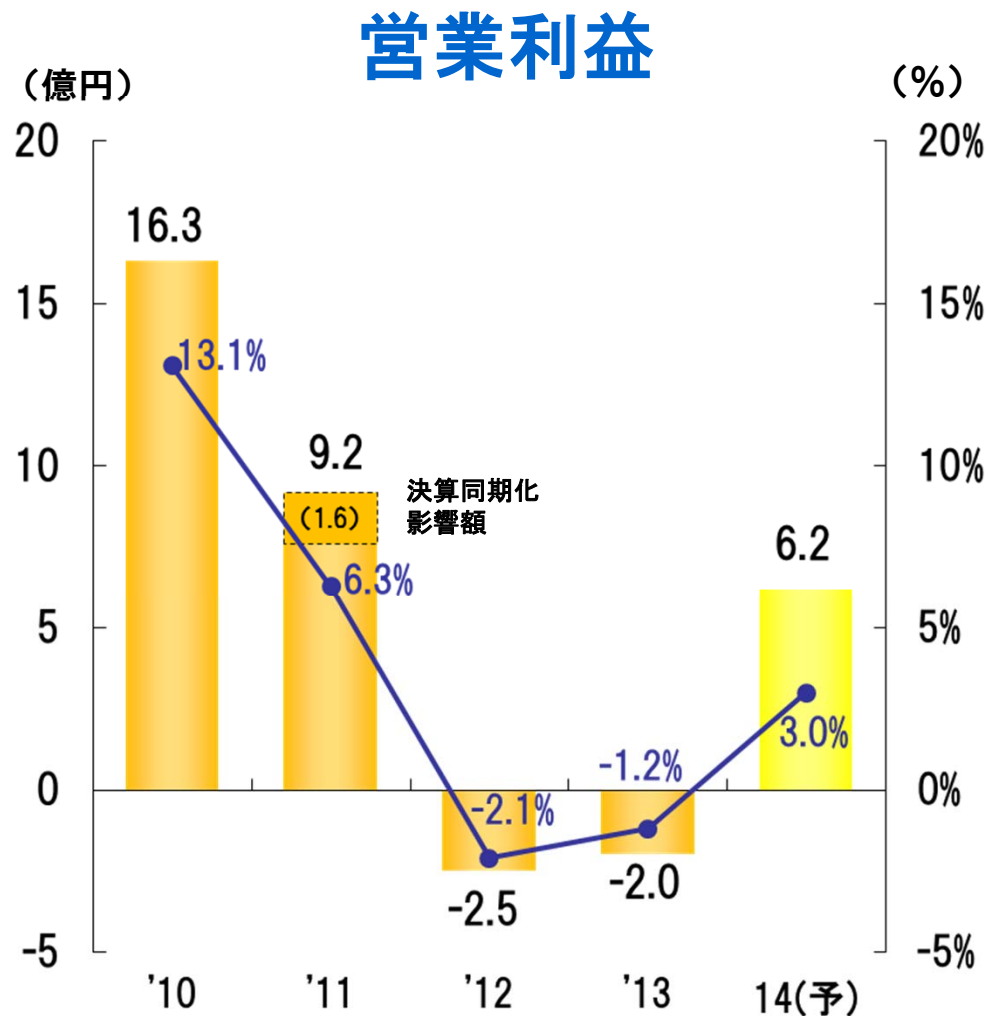
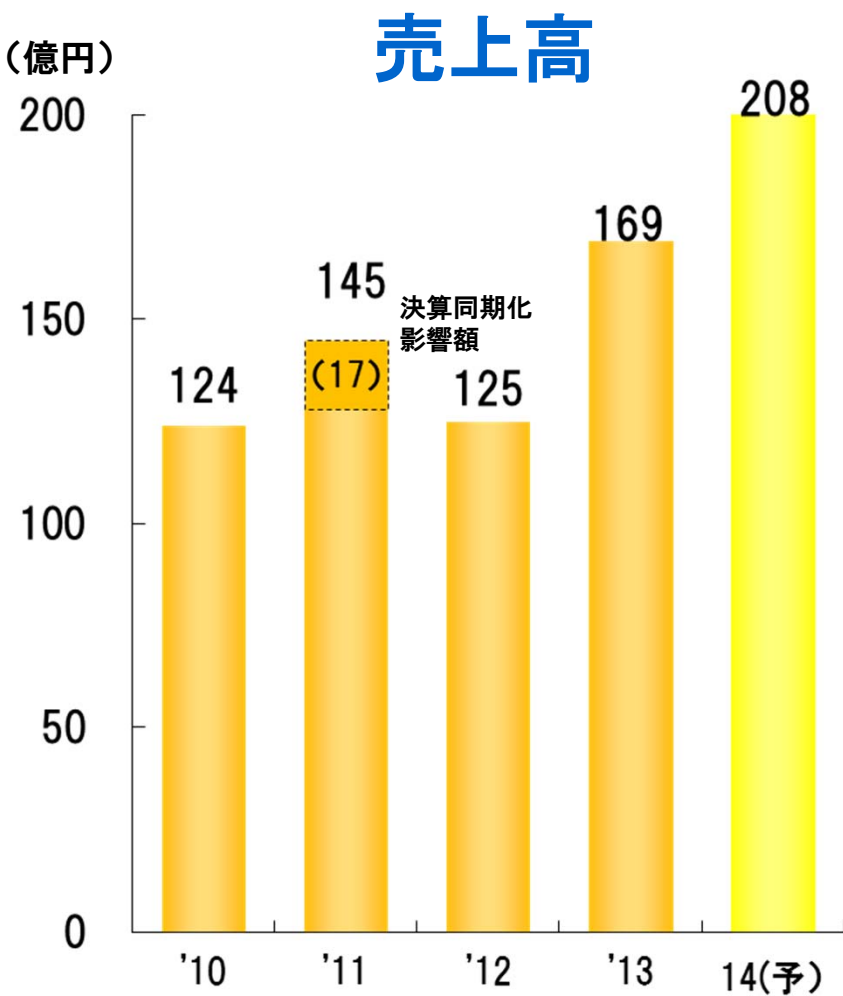
<売上高>

2014年度の売上高は、車種構成の変化や販売価格の低下があるものの、堅調な米国経済を背景に主要顧客の自動車生産も好調に推移し、前期比15.4%の増収を見込む。

<営業利益>

2014年度の営業利益は、前期のTPMS生産移管に伴う初期費用の軽減に加え、販売物量の増加や原価改善効果により、前期比30.8%の増益を見込む。

3-8 地域別セグメント:アジア



<売上高>

2014年度の売上高は、中国での新規顧客の拡販、タイでの樹脂事業立上げ、韓国での売上増加のより、前期比23.2%の増収を見込む。

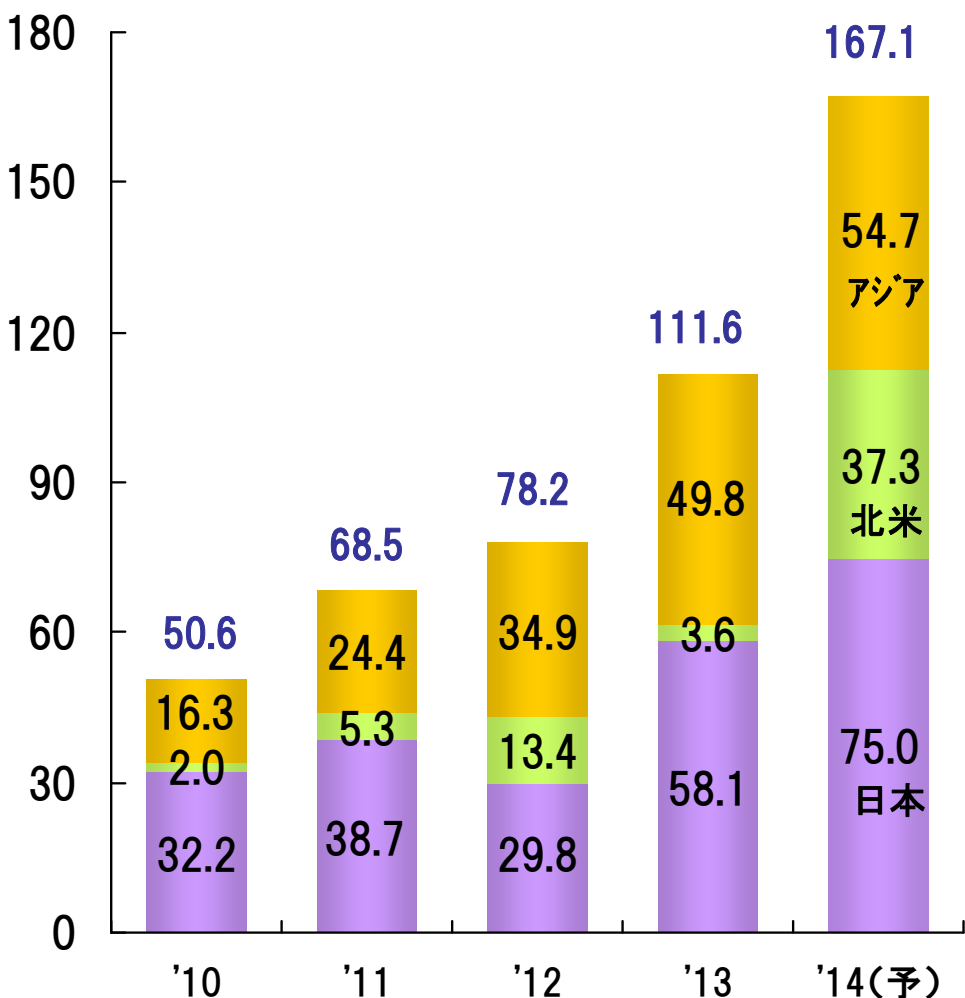
<営業利益>

2014年度の営業利益は、中国での原価改善、新規顧客への拡販に加え、台湾での金型販売の増加により、赤字解消し、黒字化を見込む。

3-9 連結設備投資・減価償却費予想

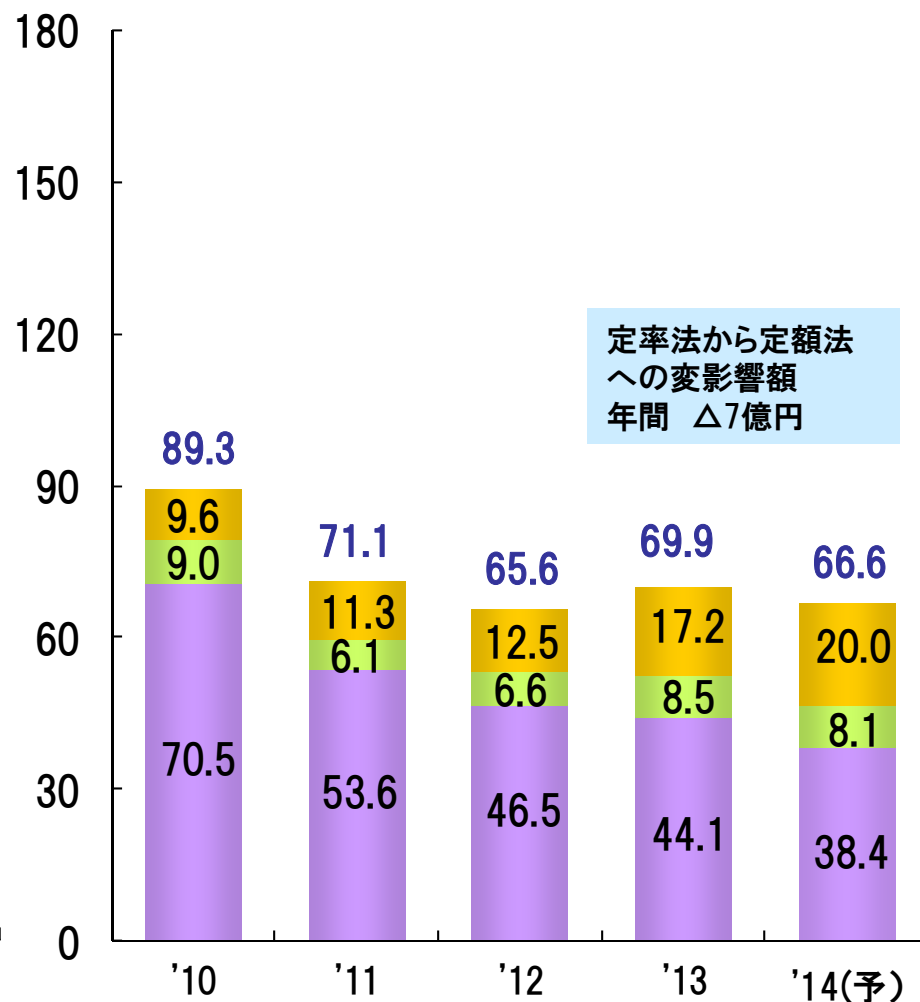
《設備投資》

(億円)



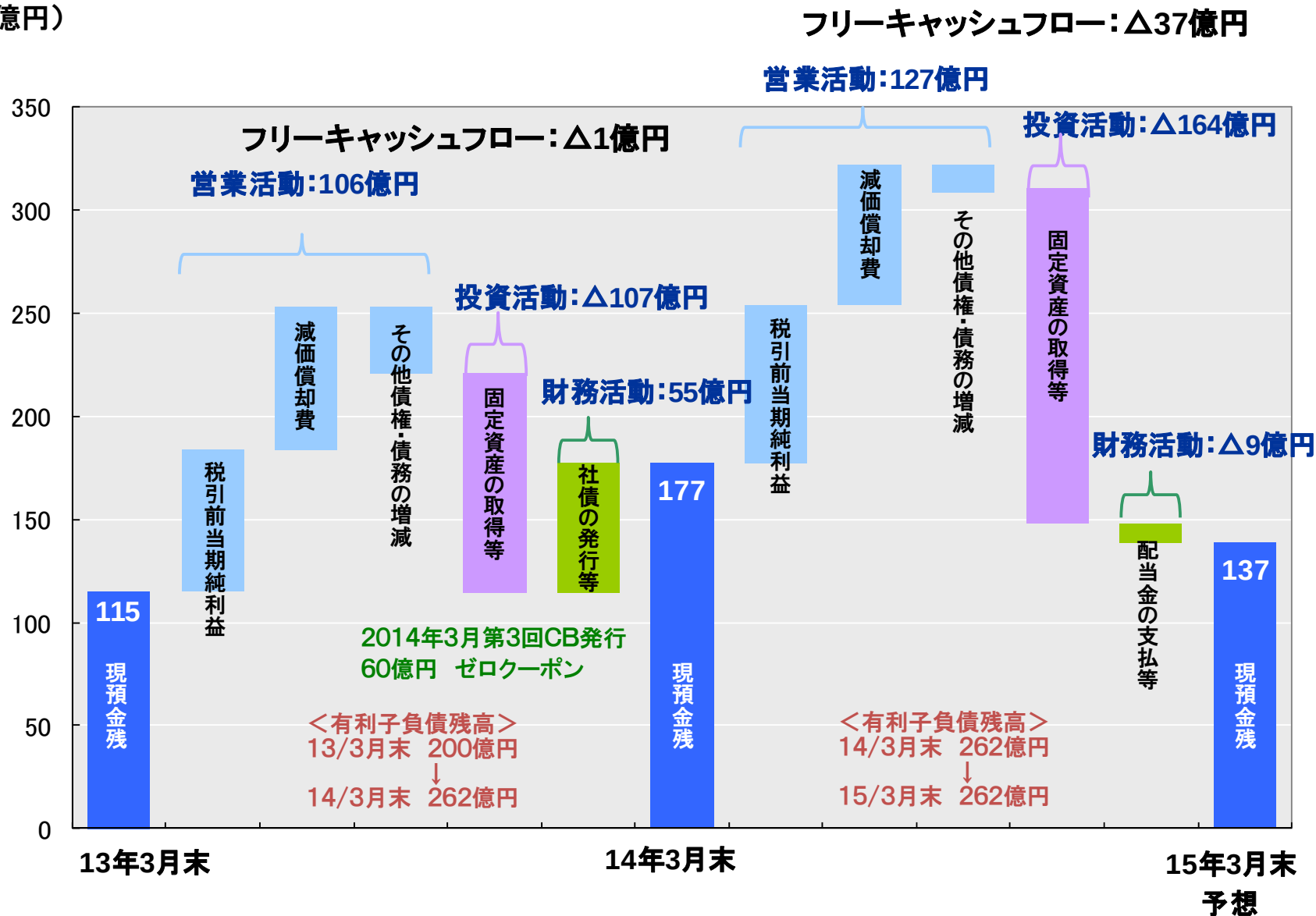
《減価償却費》

(億円)



3-10 連結キャッシュフロー予想

(億円)

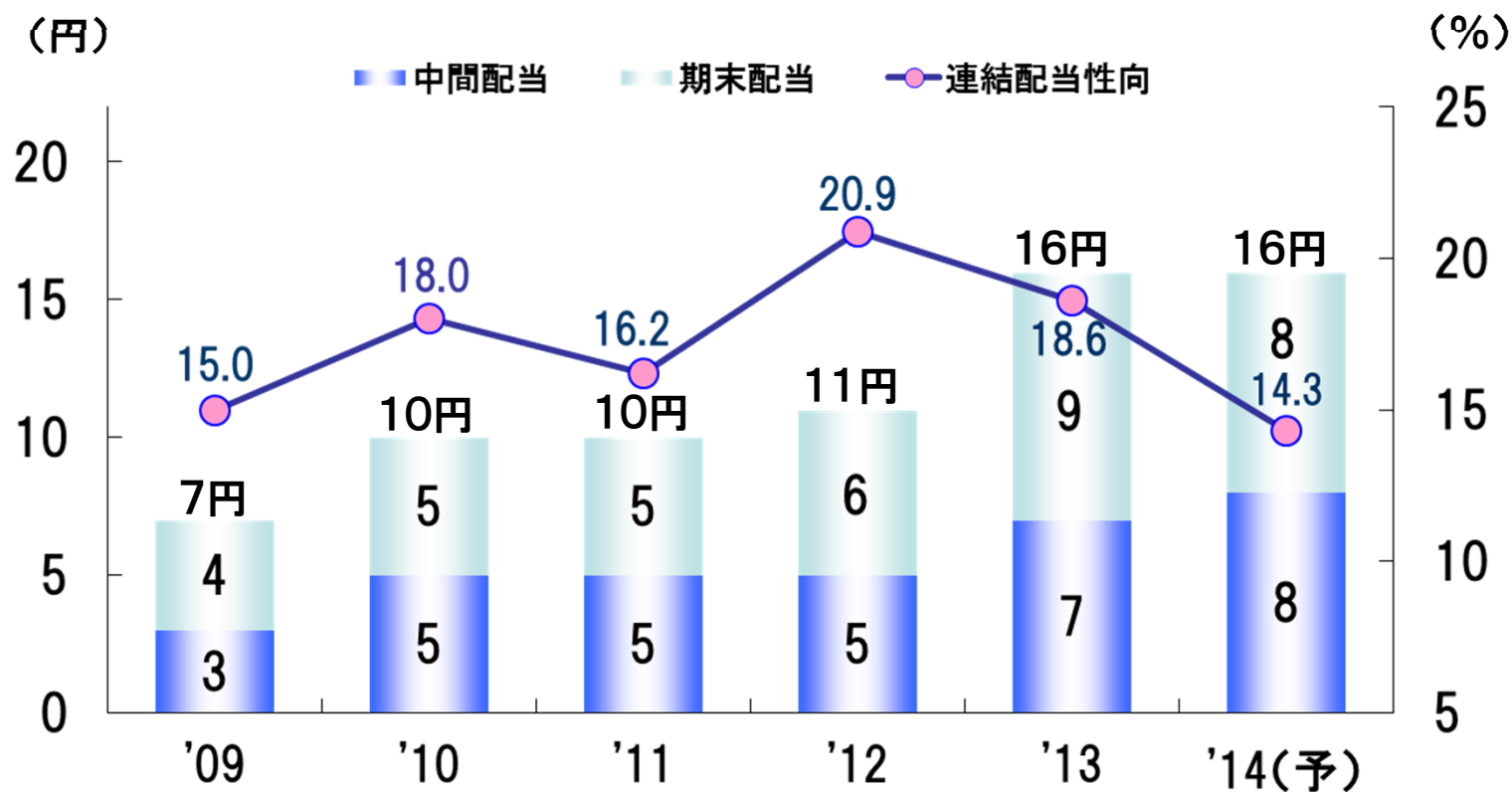


3-11 株主還元

■年間配当

2013年度 年間:16円(中間:7円 期末:9円)

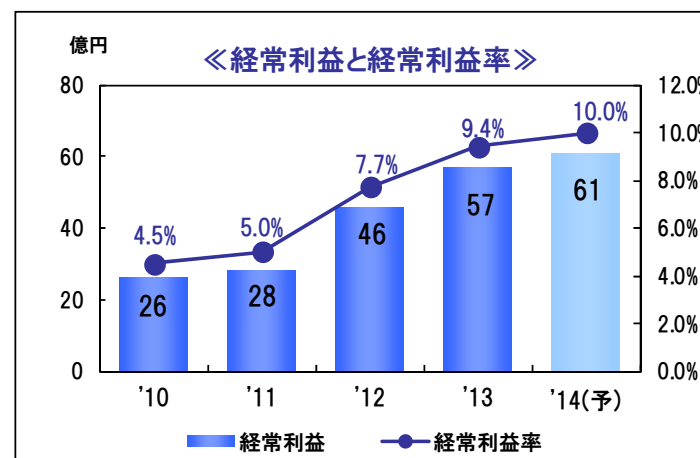
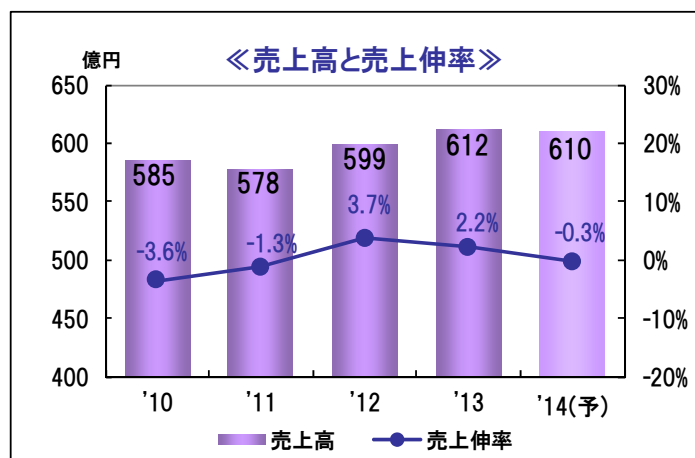
2014年度予想 年間:16円(中間:8円 期末:8円)



3-12 <参考>個別業績

[百万円]

	第3四半期		前期比		通期		前期比		通期(予想)
	'13	'14	増減	増減率	'13	'14	増減	増減率	
売上高	45,363	45,402	38	0.1%	61,206	61,000	△206	△0.3%	3期振りの減収 (08.3 70,302)
営業利益	3,659	3,570	△ 88	△2.4%	4,669	4,900	231	4.9%	3期連続の増益 過去最高
経常利益	4,713	4,803	89	1.9%	5,778	6,100	322	5.6%	6期連続の増益 過去最高
当期純利益	3,012	3,477	465	15.4%	3,618	4,200	582	16.1%	6期連続の増益 過去最高
配当金(1株当り)	7円	8円	1円	14.3%	16円	16円	—	—	
売上高営業利益率	10.4%	10.6%	0.2%		9.4%	10.0%	0.6%		
ROE	—	—	—		8.4%	8.7%	0.3%		
ROA (円)	—	—	—		6.5%	6.2%	△0.3%		
一純株当り 資産	(円) 845	(円) 940	95	11.2%	836	913	77	9.2%	



4-1 PACIFIC GLOCAL VISION 2020

20

GLOCALとは、「GLOBAL」と「LOCAL」を組み合わせた造語です。私達は、世界(GLOBAL)を舞台に成長を図り、それぞれの地域(LOCAL)の発展に貢献したいと思っています。

めざす企業像・機能のあり方

<創立100周年 2030年への一里塚として策定>

- 「連結経営」から「融合経営」へ
- 5つの“シンカ”(深化・進化・新化・真価・信加)を追求する企業

5つの“シンカ”



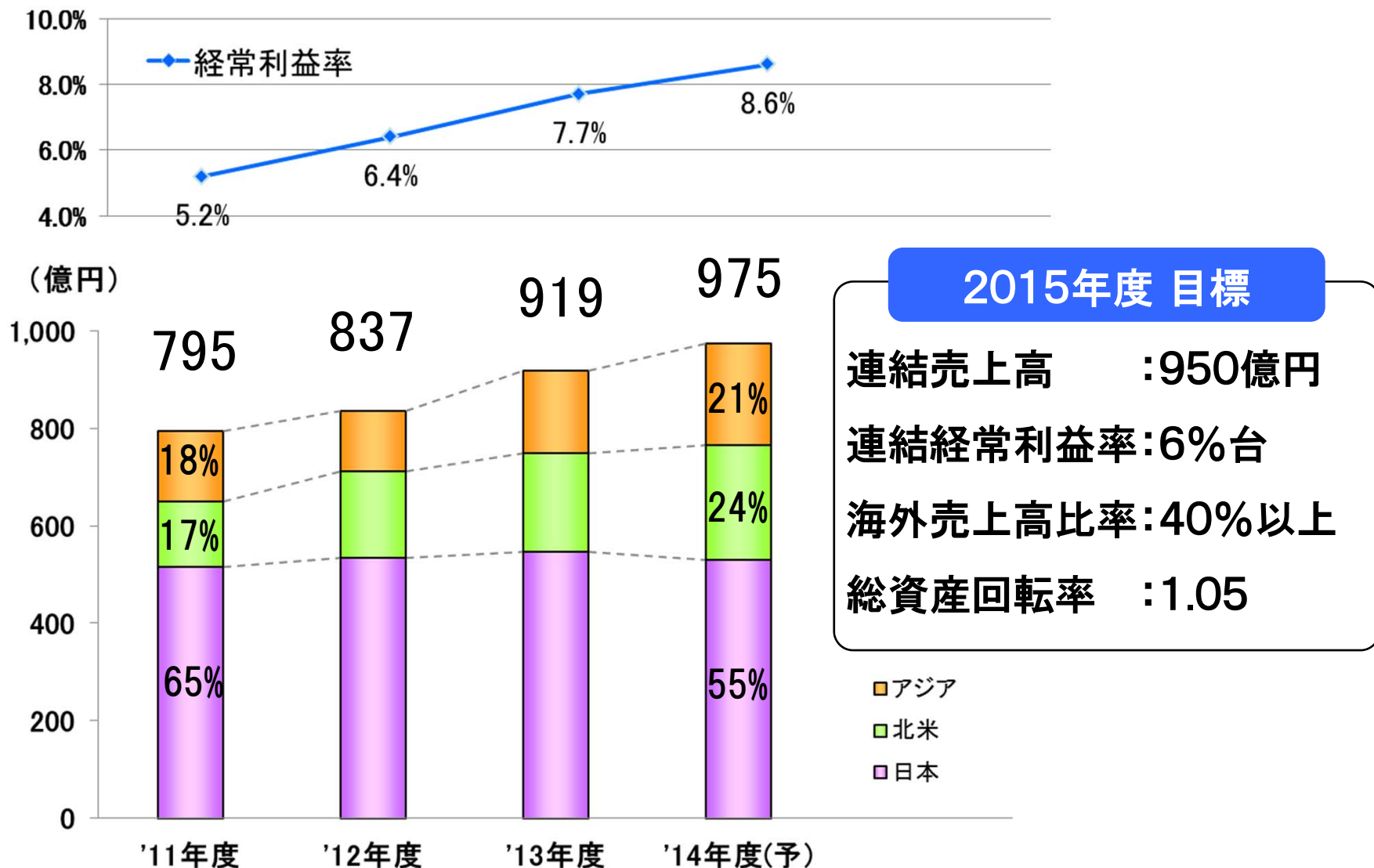
- ① 深化 : 改善する力
- ② 進化 : 革新する力
- ③ 新化 : 新技術・事業を起こす力
- ④ 真価 : 企業価値を高める力
- ⑤ 信加 : 信頼を勝ち取る力

CSRのトライアングル



4-2 「OCEAN-15」の達成状況

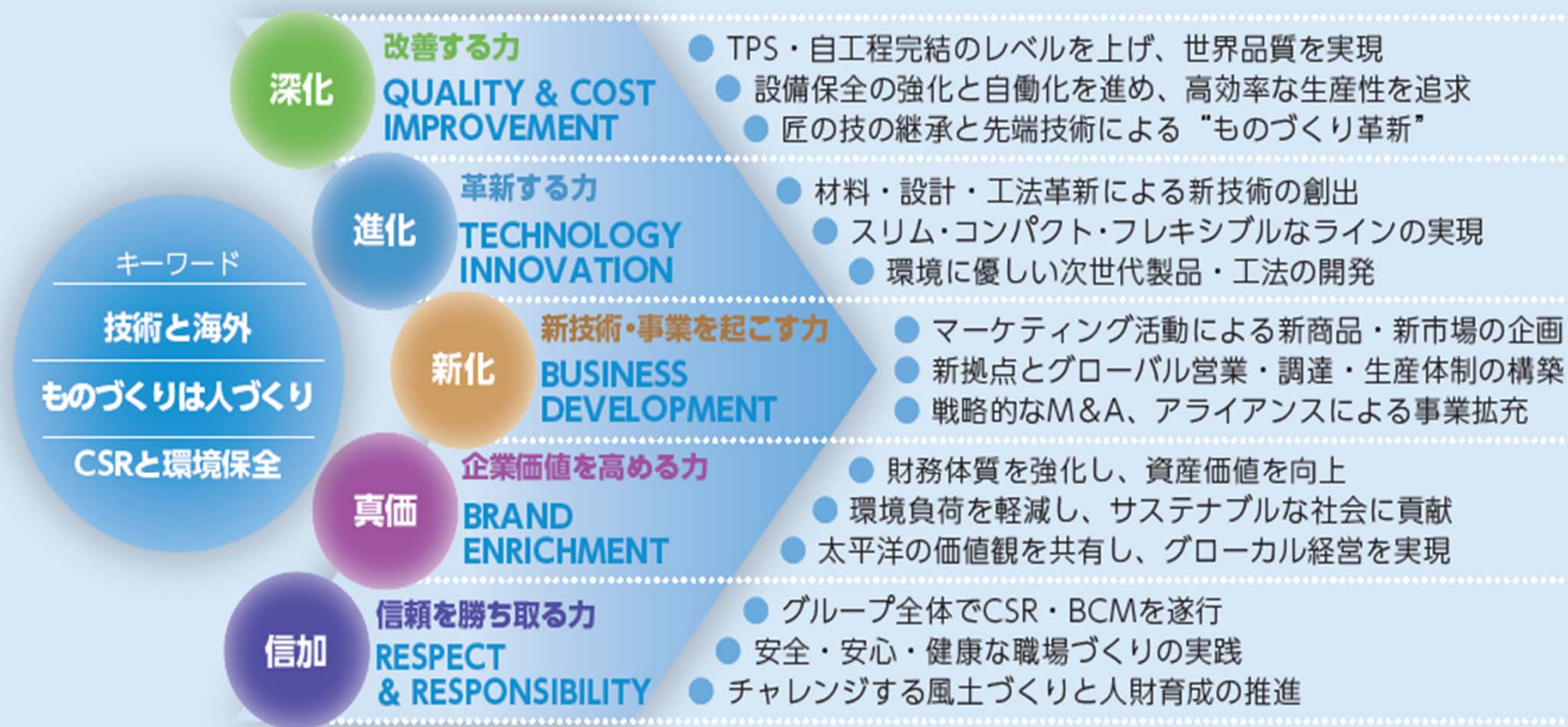
OCEAN-15で「守りから攻め」へ転換



4-3 新中期経営計画「OCEAN-18」

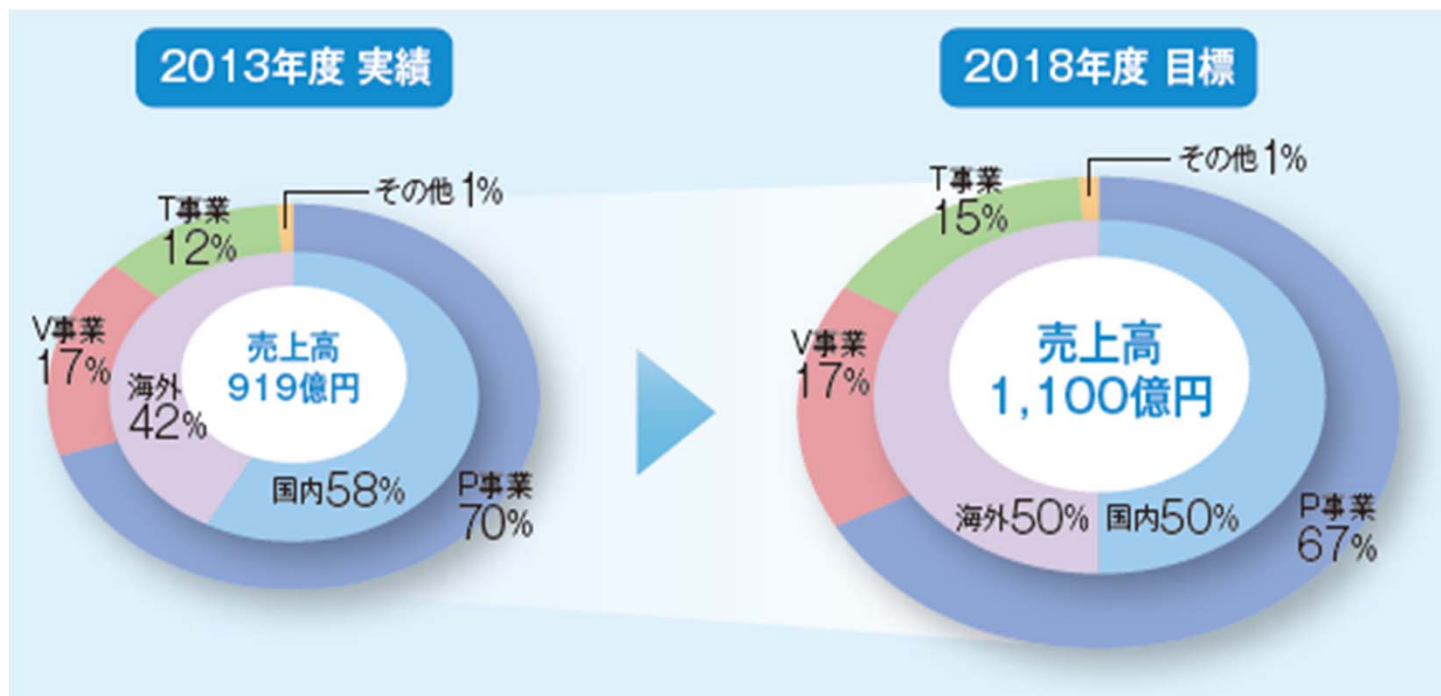
長期ビジョンの確実な実効をめざし、2018年の事業のあり方を明確にするため、中期経営計画「OCEAN-15」のローリングプランとして「OCEAN-18」を策定しました。

トップクラスのグローバルな部品メーカーをめざす



TPS…Toyota Production System CSR…Corporate Social Responsibility BCM…Business Continuity Management

4-4 「OCEAN-18」目標値



2018年度 目標

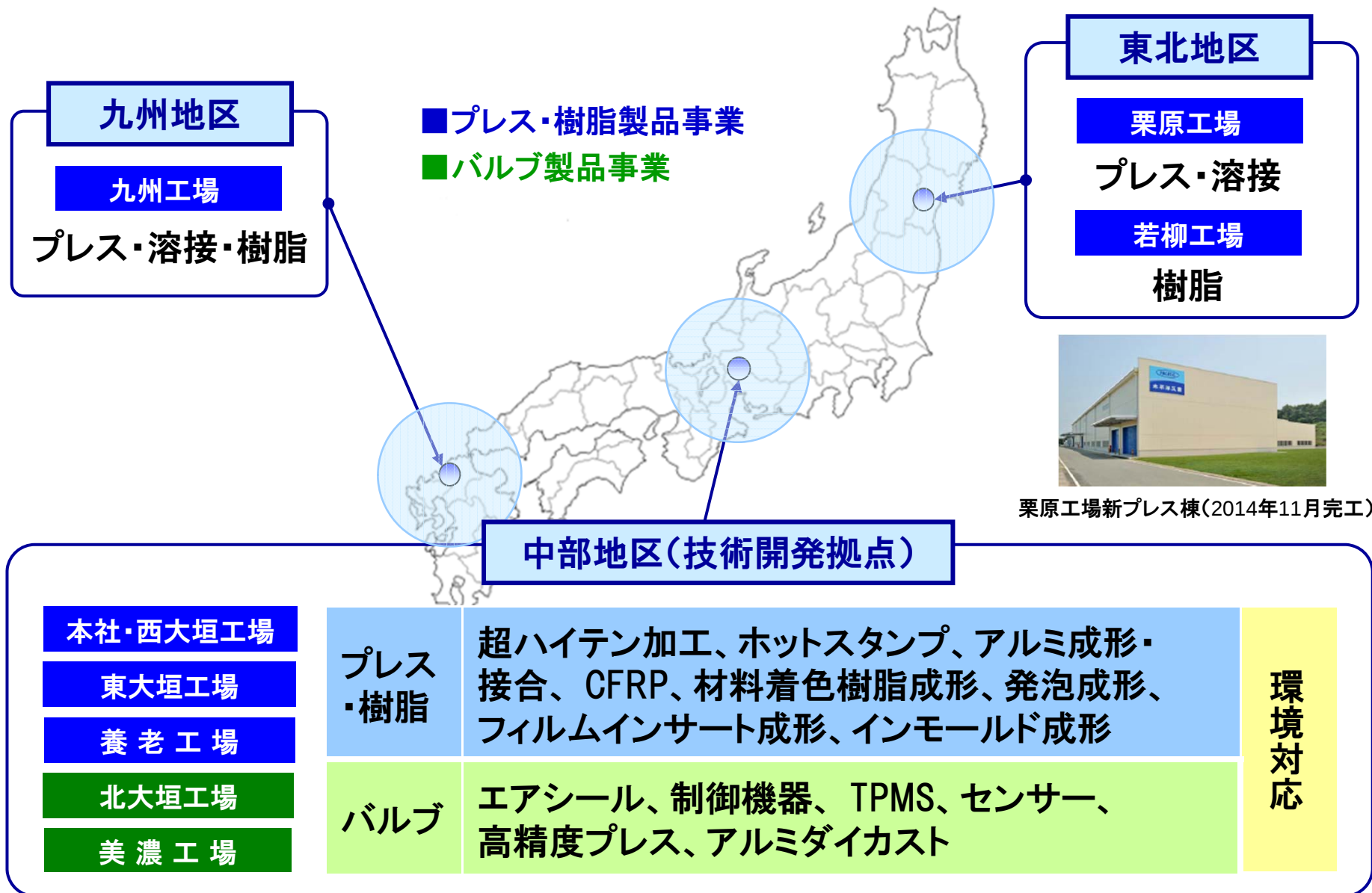
連結売上高	: 1,100億円
連結経常利益	: 8%台
海外売上高比率	: 50%以上
総資産回転率	: 1.05回転以上

4-5 主な戦略投資の内容

(単位:百万円)

地域	内容	投資額(工事ベース)		
		総額	内'13年度	内'14年度
アジア	(4-7) 中国天津 プレス機増設	2,200	700	1,500
	(4-9) 中国長沙 プレス工場・設備	4,700	1,500	1,200
	(4-14) 中国常熟 TPMS工場・設備	3,000	—	200
	(4-10) タイ 工場・樹脂設備他	1,200	500	500
	(4-12) 韓国 アルミダイカスト工場・設備	4,000	1,300	1,200
アジア 計		15,100	4,000	4,600
北米	(4-13) 米国 TPMS現地生産化	800	100	—
	(4-8) 米国 プレス事業拡充	4,300	—	3,100
北米 計		5,100	100	3,100
日本	(4-6) 東北地区拠点整備(プレス一貫工場建設)	2,200	400	1,700
	(4-7) 超ハイテン、ホットスタンプ加工対応	1,700	1,000	700
	(4-11) 高精度プレス事業の増強	1,100	100	200
	環境投資	1,200	300	300
日本 計		6,200	1,800	2,900
合計		26,400	5,900	10,600
年度別 総投資額			11,160	16,700

4-6 国内3極体制を強化



4-7 超ハイテン材加工能力の拡充

■ 1,180MPaの超ハイテン材のプレス加工ライン増強

自動車メーカーの軽量化ニーズに対応するため、
超ハイテン加工能力を増強。日米中グローバル生産体制構築。

	導入拠点		加圧能力(t)	稼働時期
冷間プレス	日本	九州	2500	'14年2月
		大垣	3000	'14年10月
	北米	米国	3000	'16年春予定
	中国	天津	2500	'14年1月
ホットスタンプ	日本	養老	500	'14年5月



2018年度売上高予測: 70億円

ホットスタンプとは

電気炉で約900℃に加熱した鋼板をプレス加工し、高い強度を持たせる工法。

4-8 北米プレス事業の強化

■ 北米第2拠点設立(2014年6月)

北米の自動車産業拡大に対応するため、
テネシー州ジャクソン市近郊に第2の
生産拠点を設立し、北米市場における
受注拡大を図る。

商 号 : Pacific Manufacturing Tennessee, Inc.

資 本 金 : 25百万ドル

投資総額: 43百万ドル

生産開始: 2015年8月

2018年度売上高予測: 40億円



北米新拠点の完成予想図



グランドブレイキングセレモニー(2014年8月)

4-9 中国プレス事業の強化

■ 中国市場における競争力強化と多客化推進

長沙の子会社では、广汽三菱と取引を開始。

2014年7月にプレス一貫工場完成。

新たにハイブリッド車用バッテリーケースの生産を開始し、日系メーカー向けに拡販予定。

2018年度売上高予測:30億円



長沙太平洋半谷汽車部件



ハイブリッド車用バッテリーケース

4-10 樹脂事業の拡充

■タイで樹脂事業を開始

タイの子会社に第2工場を建設し、樹脂製品の生産を開始。
主要製品のホイールキャップは、技術・デザイン・コスト競争力が評価され、日系自動車メーカー7社から受注を獲得。

タイ樹脂事業 2018年度売上高予測:20億円



タイの子会社の新工場



オーナメント



ホイールキャップ

4-11 高精度プレス事業の拡充

■ 高精度プレス加工の能力増強

エンジン・トランスミッションの高精度部品をネットシェイプにより、プレス加工で製造。

生産能力増強、新技術と多客化により、2018年度迄に50%の売上拡大をめざす。

2018年度売上高予測:20億円



キャリアプレート



スプロケット

4-12 ダイカスト事業の拡充

■ 韓国：太平洋エアコントロール工業で アルミダイカスト事業を拡充

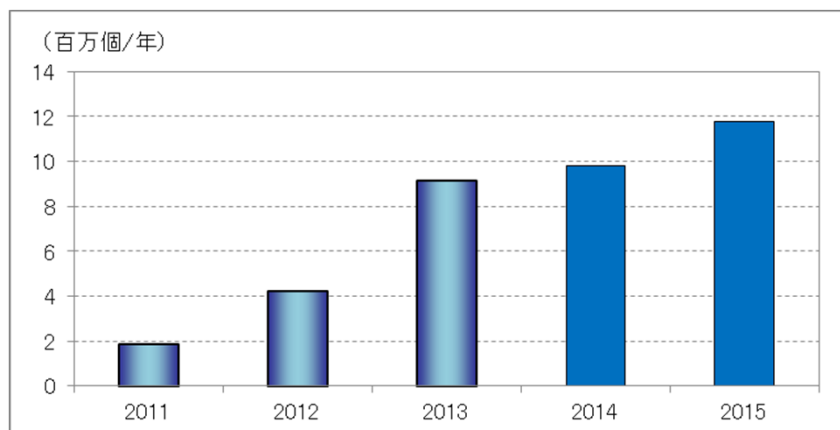
2011年3月、現代自動車のSQ認定取得

カーエアコン用コンプレッサーのケーシング
部品をダイカストから切削加工まで一貫生産。
2015年度迄に生産能力を30%増強予定。



アルミダイカスト製品

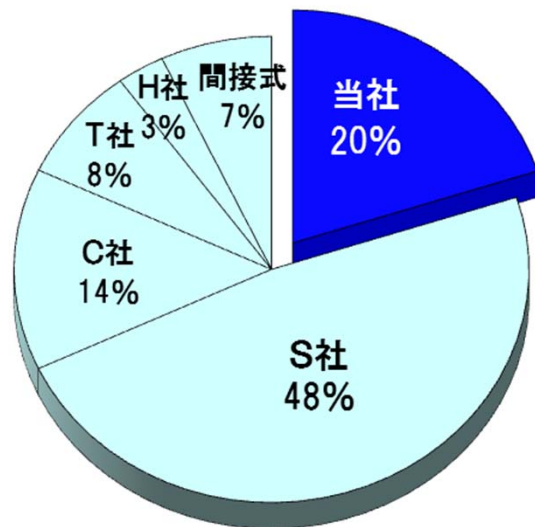
＜太平洋エアコントロール工業 生産数量＞



2018年度売上高予測:50億円

4-13 TPMS事業の拡充①

■TPMS送信機 北米シェア



■各地域の法制化の動き

地域	法規開始時期
北米	2005年10月
欧州	2012年11月
韓国	2013年1月
台湾	2014年11月 予定
中東7カ国	2015年 予定
ロシア	2016年1月 予定
中国	未定
日本	未定

■TPMS送信機の生産・販売拠点

生産・販売拠点		(16年)生産能力	販売先
日本	大垣	1,600万個/年	世界全域
米国	オハイオ	300万個/年	北米、欧州
中国	常熟	300万個/年 予定	中国、他
ベルギー	ブリュッセル	—	欧州
合計		2,200万個/年	

’14年1月に生産累計
1億個を達成

4-14 TPMS事業の拡充②

■TPMSの中国現地生産化

中国におけるTPMS装着法規化を想定し、子会社を設立。
日系・欧州系・ローカル自動車メーカーへの受注拡大をめざす。

商 号 : 太平洋汽車部件科技(常熟)有限公司
所在地 : 江蘇省常熟經濟技術開發区沿江工業区
資本金 : 100百万人民币(約16億円)
投資総額 : 180百万人民币(約30億円)
設 立 : 2014年7月
生産開始 : 2016年4月



中国常熟に建設予定の新会社

2018年度売上高予測:20億円

(参考)CSRの取り組み

■CSRレポート2014発行

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/report/>



環境保全、次世代人財育成、スポーツ・文化振興などに貢献